

【政策 1】子育て・教育



【施策 1-1】

教育環境の充実を図り、子どもたちの「生きる力」を育みます

主管課：学校教育課

◆現状と課題

これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動できるような「生きる力」を育むため、豊かな心と健やかな体の育成・基礎学力の向上・子どもの学びを支える教育環境の整備などに取り組んでいる。

喫緊の課題としては、学校改築・再編方針に基づく「長期学校改築計画」の早期策定であり、長期的視点に立った学校の適正規模・配置について検討し、統廃合も含め、学校教育審議会による議論を進める。

また、学校現場で質の高い指導が行われるためには、「教職員の働き方改革」を推進し、教職員が子どもと向き合う時間を確保することが課題となっている。不登校やいじめの改善に向けた継続的な支援等についても、さらなる取り組みが必要である。

◆方針（目的）

子どもたちの「学びに対する意欲や喜び」を高め、基礎学力の向上とともに、問題解決的な学習を通して、自ら考え行動できる力の育成を図り、すべての学びの場を通して「自己肯定感」の育成に努める。そして、「確かな学力」「豊かな人間性」「たくましく生きるための健康や体力」の総体である「生きる力」の育成を図る。

子どもたちの学びを適切に支えるため、施設・設備の整備面では、長期学校改築計画の策定、施設の長寿命化対策の推進、ICT環境の充実等に取り組む。また、一人ひとりの学びに応じた人的体制の充実を図る。

◆目標

- ①豊かな心と健やかな体が育成され、基礎学力が向上し、子どもの学びを支える教育環境が構築された状態。
- ②学びに対する意欲や喜びが高まり、「生きる力」が育成された状態。

◆目標値

①	指標名	全国学力状況調査（小学 6 年生・中学 3 年生の全国平均値（100）との対比）				
	設定理由	全国学力状況調査の結果が向上すれば、「学力」の習得の度合いが向上したと考えられるから。				
	目標値	令和元年度(現状値) 小93.5 中98.1	令和2年度 小100 中100	令和3年度 小100 中100	令和4年度 小100 中100	令和5年度 小100 中100
②	指標名	全国体力状況調査（小学 5 年生・中学 2 年生の全国平均値（100）との対比）				
	設定理由	全国体力状況調査の結果が向上すれば、「体力」が向上したと考えられるから。				
	目標値	令和元年度(現状値) 小97.3 中93.4	令和2年度 小100 中100	令和3年度 小100 中100	令和4年度 小100 中100	令和5年度 小100 中100
③	指標名	学校へ行くことを楽しいと思っている児童・生徒の割合				
	設定理由	上記指標の値が向上すれば、子どもたちの「学びに対する意欲や喜び」が高まり、「生きる力」の育成につながると思われるから。				
	目標値	令和元年度(現状値) 小88.2% 中76.0%	令和2年度 小88% 中76%	令和3年度 小88% 中76%	令和4年度 小88% 中76%	令和5年度 小88% 中76%

◆SDGsの推進に向けた取り組み

ゴール4 「質の高い教育をみんなに」

明治から受け継がれてきた「梅花教育」の精神のもと、新学習指導要領が求める主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の充実に向けて、教職員の教育観を高め、指導力を向上させるための研修を進めるとともに、児童・生徒に一人1台配備する情報端末を有効活用することにより、学習の質の向上と効率化を図る。

また、児童・生徒一人ひとりを支えるうえで必要な人材を配置することにより、個に応じた多様な学びの実現を支援する。

◆主な事業

姉妹都市教育委員等連携事業／中学生海外文化・語学学習事業／英語教育推進事業
 ／長期学校改築計画策定事業／小学校施設維持管理事業／小学校教育振興事業
 ／小学校 ICT 教育推進事業／小学校教育支援事業／中学校施設維持管理事業
 ／中学校教育振興事業／中学校 ICT 教育推進事業／中学校教育支援事業

◆個別計画

教育振興基本計画／小中学校 ICT 環境整備計画／学校施設長寿命化計画

【政策 1】子育て・教育

【施策 1-2】



安心して子どもを産み育てることができる環境づくりに、社会全体（みんな）で取り組みます

主管課：子ども育成課

◆現状と課題

少子化、核家族化の進行や、地域での人と人とのつながりの希薄化、共働き家庭の増加など、子どもと子育て家庭を取り巻く環境が大きく変化している。これに伴って、子育てに関するニーズが増大するとともに多様化が進み、その対応が求められている。

今後も少子化が進行する中、将来にわたってより良い保育環境が提供できるよう、ニーズにあった多様な保育の充実と、需要を満たす教育・保育施設の受け入れの確保、増加傾向にある特別な教育的ニーズのある子どもへの適切な支援、また、社会問題となっている児童虐待の防止対策などが課題となっている。

◆方針（目的）

家庭における子育ての負担や不安、孤立化を和らげ、安心して子育てができる環境づくりを、行政だけでなく、家庭ですべきこと、地域で支え合えることなど役割分担をしながら社会全体（みんな）で取り組む。

ファミリーサポートセンターや病児・病後児保育事業など多様な保育を充実するとともに、保育園においては、私立と連携しながら需要に対応する受入れを確保し、また、効率的に施設運営を継続するため、保育園の再配置計画の策定を進める。特別な教育的ニーズのある子どもに対しては、自立と社会参加に向けた支援を行う。児童虐待の対応においては、関係機関が連携して発生予防、早期発見、発生時の迅速な対応・支援を行う。

◆目標

- ①社会全体（みんな）の取り組みによって、安心して子育てができる環境が充実した状態。
- ②特別な教育的ニーズのある子どもが、周囲に理解されながら有効な支援を受けることにより、状況の改善や生活力の向上が図られ、より良い成長が促される状態。
- ③児童虐待においては、関係機関が児童等に関する情報や支援方針を共有し的確な対応を行うことにより、子どもが適切な養育を受けられる状態。

◆目標値

①	指標名	子育てしやすい環境づくりに対する市民満足度(市民意識調査)				
	設定理由	子どもが心身ともに健やかに育つために、安心して子育てができる環境が必要であるから。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		55.8%	56.5%	57.0%	57.5%	58.0%
②	指標名	要保護児童対策地域協議会の進行管理ケースの中で支援が終了したケースの割合				
	設定理由	児童虐待があった、また、そのリスクの高い家庭を積極的に支援し、児童等の適切な養育につなげるため。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		19%	20%	20%	20%	20%

◆SDGsの推進に向けた取り組み

ゴール4 「質の高い教育をみんなに」

子どもの心身の成長が著しい幼児期、学童期に、良質な教育・保育を確保し、心豊かでたくましく生き抜く力を持つ自立した人を育てる。

ゴール16 「平和と公正をすべての人に」

障がいや児童虐待などで支援を必要とする子どもや家庭へ、関係機関が連携して支援を行い、適切な養育を受け、子どもの健やかな成長・発達や自立を保障する。

◆主な事業

保育所運営事業／子ども・子育て支援事業／保育所建設事業／私立幼稚園補助事業
 子どもセンター運営事業／児童クラブ運営事業／児童施設運営事業
 ／就学指導支援事業／家庭児童相談事業／教育支援センター等運営事業
 ／特別支援教育等推進事業

◆個別計画

教育振興基本計画／子ども・子育て支援事業計画／地域福祉計画・地域福祉活動計画

【政策 1】子育て・教育

【施策 1-3】



生涯にわたる市民の主体的な「学び」を促進し、「生涯学習社会」の実現を目指します

主管課：文化財・生涯学習課

◆現状と課題

図書館及び市民交流センターは開館以来多くの市民に利用いただいているが、文化センターは各施設とも利用者数が減少傾向で推移している。

文化センター、美術館、記念館における各種講座等の参加者数は安定しているが、参加者の裾野を広げていくことが課題である。

美術館・記念館等の生涯学習施設は経年劣化が進んでおり、施設全ての長寿命化を実施するためには、多額の費用を要する。

◆方針（目的）

市民の主体的な「学び」を促進するため、魅力ある企画展や市民ニーズを踏まえた各種講座・教室を開催し、生涯学習の機会を創出する。併せて、市民が「学び」の成果を活かし、生きがいづくりにつながるような機会の創出を図る。

生涯学習施設については、各施設の老朽化等を踏まえ、今後のあり方を検討し、管理計画を策定する。

「音楽のまち・こもろ」を実現するため、作曲コンクールやミニコンサート等、まちじゅうに音楽があふれるよう事業の充実に取り組む。

◆目標

- ①市民が主体的に学び、自らを高め、学びの成果を地域で活かし、生きがいを持って生活している状態。
- ②生涯学習施設が適切に管理・運営され、市民が芸術・文化にいつでもふれることができる状態。
- ③市民が作曲コンクールやミニコンサートなどにより音楽にふれ、生き生きと暮らしている状態。

◆目標値

①	指標名	文化・芸術を身近に感じている人の割合（市民意識調査）				
	設定理由	文化・芸術を身近に感じている人の割合が高まれば、市民の主体的な「学び」が促進されていると考えられるから。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		—	40%	41%	42%	43%
②	指標名	芸術・文化に親しむ機会の充実に対する市民満足度（市民意識調査）				
	設定理由	芸術・文化に親しむ機会の充実に対して満足と感じている人の割合が高くなれば、市民が芸術・文化にいつでもふれることができていると考えられるから。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		65.0%	68%	70%	73%	75%
③	指標名	ミニコンサートの鑑賞者数				
	設定理由	ミニコンサートの鑑賞者数が増えることにより、市民が音楽にふれ、生き生きと暮らすことができていると考えられるから。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		727人	763人	802人	842人	884人

◆SDGsの推進に向けた取り組み

ゴール4 「質の高い教育をみんなに」

生涯を通じた学びを提供できるよう社会教育施設における講座等を充実し、生涯学習機会の創出を図る。

ゴール11 「住み続けられるまちづくりを」

市民の主体的な学びの場を提供できるよう図書館や公民館の充実を図る。

◆主な事業

図書館運営事業／公民館運営事業／学級・講座等開催事業
／高原美術館・白鳥映雪館企画展開催事業

◆個別計画

教育振興基本計画／子ども読書活動推進計画

【政策 1】子育て・教育

【施策 1－4】



かけがえのない文化財を保存・継承し、有効に活用します

主管課：文化財・生涯学習課

◆現状と課題

「KOMORO HISTORY」「小諸ふるさと遺産」「古文書学習講座」などにより文化財に関する学びの機会を醸成している。また、指定文化財保護補助金により保存・継承を図っている。

文化財の所有者・継承者の高齢化や後継者不足などにより、保存・継承・活用等が難しくなっている。

古文書の整理・調査を古文書調査室で行っているが、収集・保存・展示・調査研究等を行う体制が不足しており、郷土の貴重な歴史的資料や古文書等の散逸が危惧される。

課題であった旧小諸本陣（問屋場）の解体・復原工事に着手するが、多額の費用を投じるため、今後の活用方法を含め十分な検討を要する。

◆方針（目的）

小諸市文化財保存活用基本方針に基づき、文化財を単に保存・継承するだけでなく、観光面等と連携を取り積極的な有効活用を図る。

個人や団体が所有・継承している文化財は、適切に保存・継承・活用等ができるよう、助言、情報提供、標識設置、管理・修理費の補助等の支援を行う。

郷土の貴重な歴史的資料や古文書等が散逸しないよう、収集・保存・展示・研究等を一体的に行う体制の充実を図る。

ふるさと「小諸」を愛し、大切に思う心を育み、歴史的、文化的なお宝や、自然のすばらしさを活かした「ふるさと学習」を進める。

◆目標

- ①文化財が適切に保存・継承されるとともに、観光面等で有効に活用されている状態。
- ②地域や住民が自ら、文化財を保存・継承するための活動が行われている状態。
- ③歴史的資料や古文書等の収集・保存・展示・研究等を一体的に行い、活用されている状態。

◆目標値

①	指標名	伝統行事や文化財の保存・活用の状況に対する市民満足度（市民意識調査）				
	設定理由	伝統行事や文化財の保存や活用の状況に満足と感じている人の割合が高くなれば、文化財の保存・継承・活用等が適切に行われていると考えられるから。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		67.3%	69%	71%	73%	75%
②	指標名	指定文化財保護補助金、無形民俗文化財公開謝礼の申請数				
	設定理由	指定文化財保護補助金、無形民俗文化財公開謝礼の活用により、文化財を保存・継承するための活動が行われていると考えられるから。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		15件	15件	15件	15件	15件

◆SDGsの推進に向けた取り組み

ゴール4 「質の高い教育をみんなに」

かけがえのない文化財の保存・継承・活用等を図り、ふるさとの誇れる芸術・文化を学ぶ機会の創出を図る。

ゴール11 「住み続けられるまちづくりを」

歴史的、文化的な資料にふれ、ふるさとを愛し大切に思う心を育み、芸術・文化のまちづくりを推進する。

◆主な事業

文化財保護活用事業／旧小諸本陣建造物保存修理事業

◆個別計画

教育振興基本計画

【政策 1】子育て・教育

【施策 1-5】



スポーツを通じて、交流や活動が生まれるまちを目指します

主管課：スポーツ課
関連課：健康づくり課

◆現状と課題

小諸市では、地域指導者によるスポーツ少年団活動や各種団体の教室、大会の開催などによる様々な年代層へのスポーツ振興が行われている。また、ウォーキングなど年齢や体力に応じた健康保持につながる生涯スポーツも推進している。

しかし、スポーツニーズが多様化するなか、参加者や競技団体の減少、団体役員の高齢化などもあり、ニーズに応じた教室の検討や競技団体と連携した人材（担い手）育成が課題となっている。

◆方針（目的）

スポーツ推進計画に基づいて、関係団体と利用者ニーズに応じた教室の開催や指導者育成によるスポーツ振興に取り組むとともに、今後予定されている長野国体への準備を進める。

それぞれの体力や年齢・目的などに応じて、生涯を通じてスポーツに親しみ、活動する取り組みを関係課と連携して進める。

スポーツに親しむ環境を整備するため、体育施設の充実や個別施設計画による統廃合を含めた適切な整備を図り、安全安心な利用が行える施設管理に努める。

高地トレーニング事業による国内トップレベルの選手（アスリート）と交流する機会の充実を図り、競技への興味やスポーツをするきっかけづくりなど市民がスポーツに親しみ、まちの活性化、健康づくりにつながる取り組みを進める。

◆目標

- ①体育施設の利用などを通じて、地域でのスポーツに親しむ人が増え交流や活動が増える状態。
- ②市民がそれぞれの体力や年齢・技術・興味・目的などに応じてスポーツに親しむことができる状態。

◆目標値

①	指標名	スポーツ・レクリエーション活動が行いやすい環境づくりに対する市民満足度（市民意識調査）				
	設定理由	満足度が上がることにより、活動などの行いやすい環境の提供ができていると考えられるから。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		54.5%	56%	57%	58%	60%
②	指標名	スポーツを身近に感じている人の割合（市民意識調査）				
	設定理由	スポーツを身近に感じている人の割合が高まれば、スポーツを通じた交流や活動などが増えていると考えられるから。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		—	40%	41%	43%	45%

◆SDGsの推進に向けた取り組み

ゴール3 「すべての人に健康と福祉を」

それぞれの体力や年齢・技術・興味・目的などに応じてスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康の保持や増進など多様な意義を持てることを目指す。

ゴール4 「質の高い教育をみんなに」

国内トップレベルの選手（アスリート）と接し、競技に打ち込む姿勢や思い、頂点を目指し努力する姿などから、情熱やひたむきさを感じ、生涯学習教育の一助となることを目指す。

ゴール11 「住み続けられるまちづくりを」

スポーツニーズの多様化に応じた体育施設の管理運営を人口規模や利用状況なども検討しながら、安全・安心にスポーツに親しめる施設環境づくりを目指す。

◆主な事業

スポーツ大会等運営事業／高地トレーニング等推進事業／体育施設運営費
／総合体育館等運営事業／学校開放事業

◆個別計画

教育振興基本計画／スポーツ推進計画

【政策 1】子育て・教育

【施策 1－6】



市民の人権意識を高めます

主管課：人権同和教育課・人権政策課

◆現状と課題

平成 30 年度の「人権・同和問題、男女共同参画に関する市民意識調査」によると、3 割の人が「人権を侵害されたことがある」、また、「性別によって役割を固定する考え方」について 2 割以上の人が賛成と回答している。令和元年度から令和 2 年度に「部落差別等あらゆる差別をなくす総合計画」「男女共同参画こもろプラン 7」の策定に向けた、女性、障がい者団体などとの聞き取り調査でも、差別、偏見、不平等などを受けた体験が語られた。

このような状況を踏まえ、差別のない、すべての人の人権が尊重される社会の実現を図る必要がある。

◆方針（目的）

社会には、同和問題をはじめ、女性、子ども、高齢者、障がい者、外国人等に対する差別や偏見など、様々な人権問題が存在している。すべての人の人権が尊重され、差別のない小諸市を築くため、家庭、地域、学校、企業等の様々な場において、学習や啓発、交流活動を通じて市民の人権意識を高め、差別や偏見など人権が侵害されたときに、適切な相談・解決の支援を受けられるよう、体制を充実させる。また、女性活躍推進などの取り組みにより、男女共同参画及びジェンダー平等社会の実現を目指す。

◆目標

- ①市民が、家庭、地域、学校、企業等の様々な場において、人権に関する知識が得られ、様々な人々との交流の機会を通じ、差別や偏見等に気づくことができる人権感覚が身についた状態。
- ②市民が人権問題について、必要なときに相談ができ、解決に向けた支援が受けられる状態。
- ③男女共同参画及びジェンダー平等社会が実現できた状態。

◆目標値

①	指標名	1年以内に差別や偏見など人権を侵害されたことのある人の割合（市民意識調査）				
	設定理由	人権を侵害されたことのある人の割合が低くなれば、市民の人権意識が高まったと考えられるから。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		9.8%	0%	0%	0%	0%
②	指標名	審議会委員等への女性の参画率				
	設定理由	審議会委員等への女性の参画率が高くなれば、男女共同参画及びジェンダー平等社会の実現に近づくから。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		40.4%	45%	45%	45%	45%

◆SDGsの推進に向けた取り組み

ゴール5 「ジェンダー平等を実現しよう」

家庭、地域、学校、企業等の様々な場において学習や啓発を行い、性別に基づく固定的な考え方や役割をなくし、男女平等の社会を目指す。

ゴール16 「平和と公正をすべての人に」

家庭、地域、学校、企業等の様々な場において学習や啓発、交流活動を行い、差別や偏見をなくし、すべての人の人権が尊重される社会を目指す。

◆主な事業

人権同和教育推進事業／隣保館運営事業／男女共同参画推進事業
／多文化共生推進事業

◆個別計画

教育振興基本計画／部落差別等あらゆる差別をなくす総合計画
／男女共同参画こもろプラン